

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171700186		
法人名	医療法人加藤クリニック		
事業所名	グループホーム中山道		
所在地	岐阜県恵那市大井町2372番地6		
自己評価作成日	平成28年12月19日	評価結果市町村受理日	平成29年 2月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JkyosyoCd=2171700186-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市市賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成29年 1月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者の個性や得意なことを活かし、いろいろな仕事をさせていただいている。例えば、料理の下準備、干し柿作り、縫い物、また毎日、ゲームや歌、塗り絵・習字等、残存能力を維持しながら生活を楽しんでいただいている。また、ケアの難しい方には、センサーを利用して見守り支援し、対応している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりを尊重し、残存能力を最大限に活かし、家庭と同様の生活を支援しようとする理念の下、管理者、職員一丸のホーム運営である。その理念の実践に欠かさないのが、地域との係わりである。管理者が毎月開催される地域の「いきいきサロン」の主要なメンバーであり、他の職員も参画して地域の社会資源としての使命を果たしている。
地域との協力体制も構築されている。緊急時には両隣から応援の承諾を取っており、ホームの危急を知らせる外向けのスピーカーを設置した。恒例の秋の「五平餅会」には、近隣から主婦が応援に駆けつける。季節になれば、栗きんとん用の栗や干柿用の生柿が近隣から届く。誕生会には、踊り、フラダンス、マジック、腹話術、オカリナ演奏、バンド演奏等々、各種のボランティアが来訪している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、玄関・スタッフルームに掲示し、利用者の心に向き合い、優しく寄り添えるよう努力している。	利用者一人ひとりの尊厳を護って支援するため、4項目からなる理念を定めている。毎朝理念を唱和することで、職員は気持ちを一つにして支援に就いている。経験豊富な管理者の下、職員のチームワークは良い。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	管理者は、地域のいきいきサロンの運営者の一員として活動している。職員1名が自治会員でありホームの役割が広がってきている。地域のお祭りには、ホームを訪問して下さるなど交流を深めている。	いきいきサロンの主要メンバーとして管理者が活動し、他の職員もメンバーに加わっている。ホームが地域の社会資源として認知されてきており、呼びかけに応じて様々なボランティアが訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域から運営推進会議に出席して頂き、認知症の方への理解や支援の方法を、勉強している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を隔月で行い、利用者やホームの運営について報告し、意見交換を行いサービス向上に活かしている。	毎奇数月に運営推進会議を開催し、年間6回の開催である。ホームからの現況報告に続き、参加メンバーによる活発な意見交換が行われている。	会議メンバーによる「目標達成計画」の評価(進捗管理)を行い、ホームの課題(目標)を共に考え、改善に向けた取り組みを後押しするような体制作りを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を隔月で開き、市の担当者も出席しており、そこで事業所の実情について話し、協力関係を築いている。	運営推進会議には、市・高齢福祉課や地域包括支援センター職員の参加がある。さらに、2名の介護相談員が毎月ホームを訪れており、ホームの状況は行政に周知されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。そのためセンサー等を利用し、危険を早くキャッチし対応するようにしている。	玄関のドアは夜間以外に施錠はなく、ホーム全体に開放的な雰囲気が漂う。利用者は落ち着いた暮らしぶりであり、職員が大声で利用者の行動を制止するような場面はなく、スピーチロックに陥る懸念は少ない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	過去には虐待を感じさせる言葉使いが見られたが、そういう職員を見かけなくなっている。しかし職場として改めてもう一度取り組むことが必要である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去には研究会にも参加したが、本年度は職場としての取り組みはできなかった。職員の異動もあり、研究会の必要性は感じているが、基礎研修に追われてしまった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時に十分説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年に2回開催し、要望を出していただけのようにしている。また、玄関に意見箱を設置したり、第三者相談窓口の案内も掲示している。	管理者・職員に対する家族の信頼は厚く、運営に対しても協力的である。今年度、秋の敬老会に合わせて家族会を開き、家族の意見を聞き取った。ホームでの看取りの依頼等、これまでも有効な意見・要望は多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回ミーティングを行いながら、全体の意見を運営に反映させている。ミーティングが上意下達にならないように、司会も全員の職員が順に実施している。	職員の雇用は安定している。働きやすい職場作りを目指し、報奨金を伴った「提案ポイント制度」を導入し、「介護人材育成事業者認定制度」にも取り組みの宣言をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	家庭の都合で休みを取りたい事がよくあるが、希望調査をして勤務表を作成している。労働時間についても希望に合わせている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出張による研修や講師を招いての研修など職員育成のための研修の機会を確保するように努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	過去には行う機会があったが、今年度については職員不足のためできなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族から、ご本人が今までにされてきた生活や様子等をお聞きする事で、少しでもご本人が安心して過ごしていただけるよう考えて関わっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時には重要事項を説明し、ご本人及びご家族の意向を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所していただく前に、ホームの様子を見ていただいている。また、必要がある場合には体験入所の期間を設け、ご本人やご家族の希望に添うように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症であっても、長く生きてこれただけあって、今までの経験から教えていただくことが多々ある。又、共同生活する中において、畑仕事や掃除、料理の下ごしらえ等持てる力を発揮していただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者を職員とご家族が協力し合って支えていくために、毎月利用者の状況をお知らせし、また、ホームのお便りを作って報告している。利用者の心身状態の変化などは随時ご家族と連絡を取り合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容院や歯医者、かかりつけ医等は継続して利用していただいている。また、ここでの生活を知らせたいと言われる方には手紙や電話で知らせている。また、馴染みの方に気軽に来て頂けるよう支援を行っている。	利用者の高齢化や要介護度の進行によって、これまで訪れていた知人・友人の足が遠のく結果となっている。訪問調査当日、家族のお迎えで馴染みの美容院に出かけた利用者がいた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	比較的介護度の低い利用者が高い利用者のお世話を下さったりして支え合っている。また、気の合う方同士、おしゃべりや一緒に行うレクリエーション、外出等関わる機会は多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までサービスが終了した後、関わりを必要とした方はいなかったが、亡くなられた方のご家族がボランティアとして訪問して下さった事はよくある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人が意思を表現できる方については、意向を伺い、表現できない方については、日常行動から職員が察して対応するようにしている。また、ケア計画の見直しの機会や日常の会話から意向を伺っている。	利用者個々に「気づき記入用紙」があり、日々の支援の中で職員が把握した利用者の思いや意向を記録している。利用者担当の職員が、1年に1回利用者の思いを叶える日を設定していたが、現在は休止中である。	「気づき記入用紙」に綴られた利用者の思いや意向を、可能なものについては介護計画につなげていく仕組みづくりを望みたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントをする中や回想法で昔を語る中で、一人ひとりの生活歴や生活環境を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月に1回ミーティングを行う中で一人一人について、それぞれ職員が感じた事を交換し合い、総合的に把握するように努めている。また、毎日の記録、申し送りを参考に職員は情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時にご家族にも参加して頂きケア計画を作成している。その後は、月に1回職員でケアの検討を行っている。また、ご家族の方には、3ヶ月毎に計画を説明し内容を確認していただき署名をいただいている。	介護計画の短期目標を6ヶ月、長期目標を1ヶ年に設定し、見直しを行っている。利用者の状態の変化や意向の変化に着目しての見直しは実施されていなかった。	状態に変化があったり、意向が変わった時には、介護認定の更新や変更を待たずに、その都度介護計画の見直しを実施することが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子や活動について記載すべき事があった時に毎日記入している。計画書に基づき個別の実施状況を記入し、評価、見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族のない方、また、ご家族の仕事上都合のつかない場合には、通院、買い物、役所への書類手続き等、付き添ったり代行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアとして地域から来て下さり、話し相手や踊り、歌、マジック、演奏等をやって下さる方がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医を確認し、利用者のご家族の希望する医療機関を受診していただいている。また、ホームとしてのかかりつけ医には、具合の悪い時など、必要に応じて往診をしてもらえらる。	母体の医療機関を協力医としており、ほとんどの利用者が往診による健康管理を委ねている。訪看ステーションとも連携を築き、24時間365日の対応が可能となっていることから、利用者・家族の安心度は高い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回訪問看護ステーションから来てもらっている。また医師が週1回訪問しており利用者の健康状態については常時相談でき適切な受診ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院のためにご家族や医療機関との話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	これまでに数名の方の看取りを経験し、ターミナルケアの方法について、ご家族職員間の話し合いを行っている。機械浴が無く入浴が困難な寝たきりの方は、特養への入所ができるよう交渉している。	利用者・家族の多くがホームでの看取りを望んでおり、今年度、既に利用者4名の看取りを実施した。運営母体が医療機関であることから、看取りの実施に関しての職員の不安は少ない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災訓練時救急救命について実演してもらい勉強会を行ったが、個々の職員全員が体験できなかったので全員が行える		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署指導の下、訓練を行っている。また、年に4回独自で避難訓練を行っている。ライフラインが止まったらと仮定し、カセットコンロを用いて、ご飯を炊き食事をする訓練を行った。	炊き出し訓練をしたり、危急な状態を近隣に知らせるために外向けのスピーカーを設置したり、備蓄の飲食品を再検討する等、万一の時の備えを確実なものとしている。両隣りからは、緊急時の応援の承諾を取っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	運営理念に人権とプライドの尊重をかけた、取り組んでいる。	職員は、利用者個々の意思を尊重して支援にあたっている。日課となっている午後のレクリエーション(当日はバンド体操とラジオ体操)は、希望する利用者3名と職員とで実施されていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事作りの時間を省き、利用者に寄り添える時間を増やしてきた。しかし、本人の希望とご家族の希望が違う場合の調整が難しい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員自身の仕事をできるだけ減らし利用者様本位の暮らしができるように希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で判断できない方は選んで着せて頂いています。適切でない場合はさりげない誘導で着替えていただきます。散髪については希望により美容院へ出かけたり、訪問美容を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今年から毎食、業者作成の献立にし、簡略化した。汁の調理や片付けでは利用者と職員と一緒にやっている。	手作りから、配食業者の提供する冷凍食材を使った調理方法に変更したため、利用者の調理参加の度合いは減っている。月に2回の「喫茶の日」や、誕生日の希望メニュー等で、食のマナー化を防いでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの栄養摂取量を掲示し、お茶の時間、入浴後など水分補給を心掛けている。飲み込みの悪い方は、刻み食やミキサー食にして食べやすいよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを促し、昼食後は職員が口の中を見て確認している。また、定期的に入れ歯の洗浄を行っている。歯の治療の必要な方については歯科受診をし、治療に基づいた口腔ケアができるよう助言し職員が仕上げ磨きを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの誘導の必要な方には、排泄パターンを記録して声掛けをしたり、ご本人の様子等から直接トイレ誘導を行っている。	今年度約半数の利用者の入替えがあったが、新たな利用者の要介護度が高いため、ほとんどが紙パンツやパッドを利用している。利用者の尊厳に配慮し、優しい言葉での声掛けとさりげない誘導を実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録をつけて下剤の服用や水分補給を行っている。また、朝のラジオ体操や昼食後のゴムバンド体操、リハビリ体操など、体を動かす時間を確保している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、血圧体温を測定して、様子がいつもと違う時は、訴えを聞いて入浴の可否を決めている。また、本人の希望で入浴の順序や時間、湯温を考慮している。	造りは家庭風呂であるが、浴槽と洗い場はやや広い。1日置き、週に3回の入浴支援を受けている。本人の希望により、浴槽に入らずにシャワー浴と足浴の支援を受けている利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	比較的夜遅くまで起きてみえる方、早く休まれる方など、それぞれ生活リズムをつかみ対応している。また、よく眠れるように昼間は体を動かすよう毎日レクリエーションを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的や用法、用量は薬剤専用の申し送りノートを作り周知しているが、副作用まで理解している人は少ない。間違いのないよう1回に服用する薬を分包して記名し、服用は職員が声掛けして飲み終わるまで見守りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗いや片付け、洗濯物たたみ、掃除、食事の準備、裁縫など得意な事を活かしてやっていたらいい。喫茶へ外出するなど気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ホームの中だけに限定しないで、散歩や買い物、美容院などを楽めるようにしている。また、ご家族と外食やドライブ等にも出かけられている。	「中山道」の街道沿いの山間に立地することから、景観を楽しみながらの散歩や季節を求めているドライブには事欠かない。周辺には、春の花見や秋の紅葉の名所が数多く存在し、外食や弁当を持参しての遠足は利用者にとっての楽しみとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員がホームの方でお金を預かって管理し預かり金の収支明細をご家族に報告している。これとは別に財布を自分で持ってみえる方が、1名ある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけてほしいと言われた時は、電話を掛けたりしている。年賀状については数名の方が書いて出されました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広めの家という雰囲気です居室には、和室もあり、又季節感のある花などを飾ったりして家庭的である。また、食堂にすぐに行けるよう配置されており、みんなが顔を合わせやすくなっている。浴室も家族風呂と同じで一人ずつ入浴している。	吹き抜きの天井、リビングと食堂が区分された広い居住スペース、リビングの一角に設置された畳の座敷等から、ゆったりとした解放感が漂ってくる。利用者手作りの小作品や習字の作品が壁面を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の居間があつてくつろいだり、ソファーなどでテレビを見たり、また食堂のテーブルなどで自由に過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される時に本人の使い慣れた物をお持ち頂いて個性のあるお部屋にしている。また、人形やその他装飾品を持ち込まれ、自分の部屋らしく落ち着いて過ごせるよう配慮している。	居室の壁面に腰板を張り、ガラス窓の内側には障子を組み込んだ純和風の造りである。レクで制作した自身の作品だけでなく、他の利用者の作品も収集して飾ってある居室があった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室とトイレ、洗面など必要な生活ラインを近くに配置し、食堂へも各居室から最短距離にしている。また、居室には大きく名前が書かれている。持てる力を発揮して感情豊かに暮らしている。		